

1 山口市文化振興ビジョン検討懇話会専門部会委員について

区分	氏名	主な役職
学識経験者	中野 良寿	山口大学教授
	小柴 満美子	山口大学 ものづくり創成センター 副センター長・准教授
文化に関する有識者	広田 早苗	創作舞踊家 山口県文化芸術審議会委員
教育、経済団体関係者	鈴木 克彦	(一財)山口観光コンベンション協会専務理事
文化に関する有識者	菅沼 聖	山口情報芸術センター 学芸普及課 課長補佐
文化に関する有識者	梶山 由一	鑄銭司郷土館館長
文化に関する有識者	小山 哲彦	大内文化街道まちなみ協議会会長

2 会議の内容について

◆第1回:平成30年12月18日

新たな文化振興ビジョンの策定に向けて

- ① 文化振興ビジョン策定方針について
- ② これまでの文化政策の取り組みと市民意識について
- ③ これからの文化政策の展開について

◆第2回:平成31年1月29日

「教育・人材育成」について

◆第3回:平成31年3月11日

第2回専門部会の集約意見とプロジェクト事業の方向性について

◆第4回 平成31年4月16日

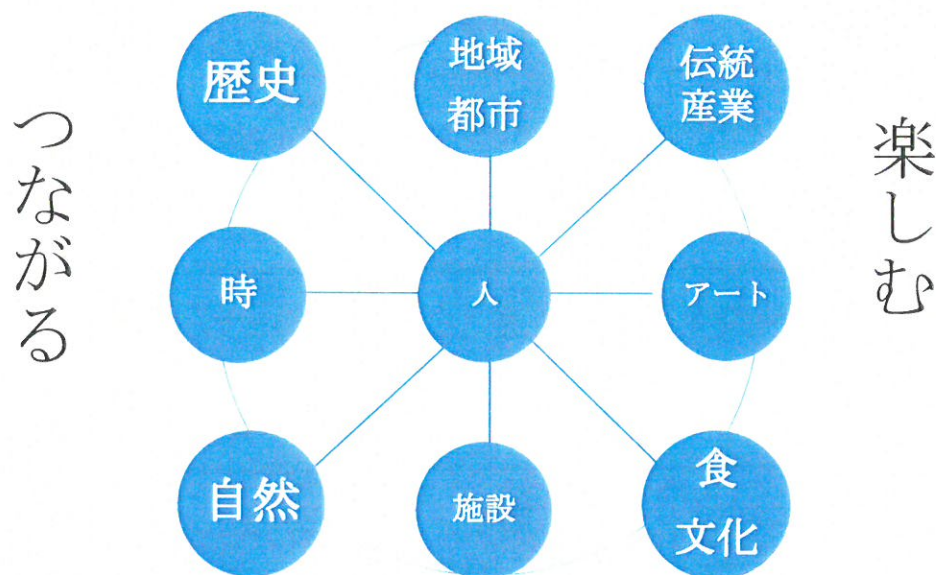
これまでの集約意見と各プロジェクト事業の方向性について

3 プロジェクト事業の方向性について

① 時や資源を生かした文化の融合プロジェクト（いかす）

人や資源、地域など、それぞれのコンテンツが個性を放ちながら、つながり融合し、山口らしさあふれる文化を創造するプロジェクト

キーワード：「いかす」、「はぐくむ」、うみだす」



いかす1：「時」

節目節目の記念すべき年や県内外で開催される大型プロジェクト事業にあわせて、本市の魅力や文化的価値、存在感を効果的に発信します。



- ・2020 日本博、雪舟生誕 600 年
東京オリンピック・パラリンピック競技大会、
- ・2021 山口ゆめ回廊博覧会（周遊型博覧会）、重源生誕 900 年
山口市民会館開館 50 周年
- ・2023 山口情報芸術センター開館 20 周年
- ・2024 中原中也記念館開館 30 周年
- ・2025 日本国際博覧会
- ・2027 中原中也生誕 120 年

いかす2：「地域資源」

2-1 地域の地域資源

21 地域の個性あふれる地域資源や豊かな自然環境、歴史的な町並み等を活用した地域の個性を発信する取り組みを促進します。

イメージ

- ・驚流狂言 ・徳地人間浄瑠璃 ・地福のトイトイ
- ・東大寺サミット ・雪舟サミット
- ・郷土食を生かした取り組み
- ・日本のクリスマスは山口から
- ・秋穂八十八ヶ所霊場巡り
- ・地域資源を巡るまち歩きなど



▲廻船のまちアートギャラリー

部会意見

- ・山や川、海を生かしたまちづくりをしていったらよい
- ・サンクチュアリなイメージの山口を広げてほしい。
- ・まち歩きをさせると、子どもたちが文化に興味を持つきっかけになる
- ・伝統芸能にまず触れる機会をつくる。知る機会を作るということをしないと。将来、文化に携わる人、興味を持つ人、支援をする人が担われていくために、さらに子どもたちが、地域の伝統文化・芸能に触れる機会を作るということに取り組んでいけるといい。
- ・現代アートと歴史資源のコラボレーションのような要素なども組み込んでいただけると嬉しい。

2-2 「食」と「伝統産業」

関係機関や大学等と連携し、本市の個性的な食文化や伝統産業の付加価値を向上させ、地場産業の振興及び後継者育成に取り組めます。

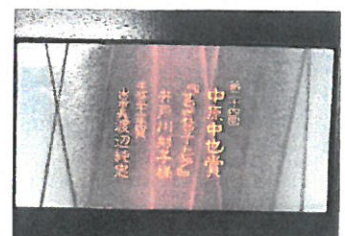
- ・「食」…ブランディング、販路開拓支援、情報発信
- ・「伝統産業」…ブランディング、販路開拓支援、後継者育成



▲室町時代から愛されている山口を代表する銘菓「山口外郎」



▲車えび養殖事業発祥の地 秋穂



▲中原中也賞受賞者に贈呈される山口萩焼の陶板

部会意見

- ・伝統工芸品や特産品、郷土食なども活用していくのも今後1つの形。

いかす3：「施設」

本市の施設等を活用して、市民の「学び」や創造性を高め、市民と市民、市民やアーティストの交流を促進します。

- ・各施設の特性を生かした創造事業の取り組みや市民文化活動の推進
- ・本市の個性となる歴史や芸術文化を意識した公共空間づくり
- ・新山口駅北地区拠点施設を活用した文化創造活動の取り組み



▲令和3年度の供用開始に向け工事を進めている新山口駅北地区拠点施設

部会意見

- ・新山口駅周辺の再開発とも連携して
- ・多世代交流の場として、双方が満足できるような仕組みづくり

② まちの未来を創るひとづくりプロジェクト（はぐくむ）

あらゆる世代の人が文化芸術に触れることのできる環境づくりや、文化を守り、創造する人材を育成するプロジェクト

はぐくむ1：「次代を創造する人づくり」

世界レベルでAIやロボットなどの技術革新が進み、産業や社会のあり方に革命的な変化をもたらそうとしており、先端技術の進展に対応した人材育成が求められています。

社会のあらゆる場面でデジタル化が急速に進展する中、豊かな創造力を育み、先端テクノロジーやAI時代に対応した人材を育成します。

① AI時代に対応した創造力豊かな人材育成

- ・質の高い文化芸術に触れる機会の提供
- ・教育委員会と連携したアウトリーチ活動や教育普及活動の研究
- ・大学や高等専門学校と連携した教育普及活動
- ・先端テクノロジーを活用したワークショップ



▲未来の山口の運動会



▲テクノロジーにふれる子ども



▲中原中也記念館で開催される空の下の朗読会

② アーティストの育成と活動支援



▲第9回新進アーティスト大賞

展覧会ポスター



▲第10回新進アーティスト大賞

展覧会テーブルカット



▲平成30年度はアーティスト大賞10年展を開催

- ・アーティストの創作活動の支援・発表機会の提供
- ・YCAMインターラボにおけるアーティストとの連携

部会意見

- ・子ども同士で、話し合いができるような環境を作る
- ・子どもの頃から、見たり触れたりする機会を与えて育てていかないと、本人が見る側から、する側に進んだ時に「何がいい。何がしたい。」というものが芽生えてこない。
- ・経験や体験が出来る場所をたくさん与える
- ・文化でワークショップなど、アウトリーチの強化があってもよいと思う。
 - ・大学やYCAMがあるから、アクティブに、動機的に学ぶということの楽しみが遊びになっているというような仕組みが作れたらいい
- ・今後、技術発展に対して、どういう考えを持てるのかというのは非常に重要なリテラシー
- ・これから先、若者が山口にいて、学びたいとか、いろんなことに挑戦したいという目標をもてる「場」や「人」を作り上げていくのが、私たちの任務ではないか。
- ・失敗しても立ち上がるチャレンジ精神を育む

はぐくむ2:「やまぐちの文化を支える人づくり」

本市で行われている様々な伝統行事や祭り、文化芸術活動などを支える人材の育成につとめます。

- ・伝統行事や祭りを後世へ引き継ぐ人材、支える人材の育成
- ・本市の文化を伝え回遊を促進するガイドやおもてなし人材の育成
- ・ファシリテーターとなる人材育成プログラムの実施



▲萩往還語り部の会



▲山口セタちゃんまつり

- ・本市の個性や文化的価値、活動を支えるボランティアの育成

部会意見

- ・ボランティアが学び、巣立っていける仕組み
- ・おもてなし人材の育成
- ・多言語に対応した人材育成

はぐくむ3：「あらゆる人々が文化につながる場づくり」

あらゆる世代や障がいを持つ人、外国の人などが、文化芸術に触れる環境を創出するとともに、文化芸術を通して人がつながる環境づくりにつとめます。

- ・文化施設のバリアフリー化に向けた取り組み
- ・障がいのある人が積極的に文化芸術活動に参加できる取り組み
- ・施設やサイン、ホームページ等の多言語化対応に向けた取り組み
- ・地域文化活動の充実
- ・生涯学習活動の充実
- ・大学や企業と連携したリカレント教育の推進
- ・多世代が交流し、教えあい学びあう場の環境づくり

部会意見

- ・インクルーシブ的な視点を
- ・多世代交流の場として、お年よりも子どもも満足できるような仕組みを
- ・両方が伝え合うし、両方が教え合う
- ・生涯成長し続ける
- ・市民大学などとも融合しながら、循環型システムを構築してほしい
- ・文化度が高いから教育度が高い
- ・施設の多言語化対応を

③ やまぐち価値創造プロジェクト（うみだす）

本市を代表する個性あふれるコンテンツである「大内文化」や「明治維新」を中心とする歴史的資源、「中原中也」を中心とする文学、「山口情報芸術センター」をプラットフォームとする新しい価値の創造を、さらに深化・発展させた取り組みを進め、本市のブランド力の向上につとめます。また、文化芸術を基軸とした産業化や創造的人材の集積に向けて、国内外の企業や大学、関係機関等との連携を進め、文化の融合やイノベーションが創出される環境づくりにも取り組みます。

うみだす1：「文化創造のプラットフォーム」

YCAMは、世界のアートを牽引するアートセンターとして、また、先駆的な取り組みを行う研究機関として、市民はもちろん、国内外のアーティストや研究機関、企業等からも注目を集めています。これまでの活動を通して培ってきた、知見やネットワークを生かして、市民



▲YCAMのワークショップの様子

や企業等との連携・協業を進め、市内と世界の双方向に向けた創作活動を展開し、交流を促進し、本市のブランド力を高めていきます

- ・ 先端的な芸術表現への取り組みと進化し続ける創造作品の制作・発表
- ・ バイオテクノロジーや人工知能など最新テクノロジー等を活用した先駆的・実験的な取り組み
- ・ 市民がテクノロジーに触れる機会の充実
- ・ 市民や企業をはじめとする多様な人材や文化芸術団体等の連携・協働
- ・ 価値を創造する環境整備とイノベーション創出への貢献
- ・ Society 5.0 や Iot データ活用にも対応した文化芸術の実践
- ・ 国内外の創造的な人材が集まり新たな発想を創出する環境づくり
- ・ 文化芸術を機軸とした新産業の創出に向けた企業等との協業に向けた取り組み
- ・ アーカイブの作成、修復、活用
- ・ 研究論文の発表や研究成果のオープンソース化
- ・ 市民や国内、世界に向けての効果的な情報発信
- ・ 商業やビジネス振興との関わりの強化
- ・ 情報技術を基盤とし応用した新ビジネスへの推進に向けての体制づくりの検討



山口情報芸術センター[YCAM]

部会意見

- ・ 変わることと、続けることを同時にやっていく視点が必要
- ・ 一つのハブ、プラットフォームとして今、話題に上がっていないキーワードも YCAM と繋げてみる。
- ・ 次の10年は健康を絡めるのも一つ
- ・ いろいろ循環させるためには、商売というか、お金が回るような仕組み
- ・ 市民と考えていくということ それが世界的にも差別化につながる
- ・ メディアは新しくて、先端的な良さはあるが、時間がたつと一般化される。新しいものを開拓しないといけない

部会意見

- ・歴史と絡むテクノロジー
- ・若者だけが、テクノロジーを語るのではなく
- ・高齢者に対するターゲットとしたメディアアート
- ・YCAMにシルバーラボ
- ・先端的な方向を見据えて、一方、伝統的なこと、あるいは地域、今まであったものとうまくコラボしていくような視点
- ・山口だけが持っている価値をどうやって創っていくかということが重要
- ・大内文化の土壌の中で受け継がれた文化度の高いYCAM。今の文化度の熟成を周知

うみだす2：「大内文化によるまちのブランディング」

室町時代に守護大名大内氏により花開いた「大内文化」を活用・他の資源と融合させた事業を展開するとともに、歴史の薫る町並みや景観づくり、関連文化施設の連携等に取り組みます。



▲重要文化財 龍福寺本堂

- ・大内文化特定地域の回遊機能、観光機能強化
- ・大内氏歴史文化の研究と活用
- ・「雪舟」の顕彰とまちづくりへの活用
- ・大内文化特定地域内の賑わい創出に係る人材の育成や活動支援、イベント等の充実
- ・町屋の再生による歴史的町並み景観の形成促進、出店支援
- ・伝統産業の振興とブランディング
- ・山口市菜香亭、十朋亭維新館、山口ふるさと伝承総合センター、C. S 赤れんがをはじめとする大内文化特定地域内の施設連携

部会意見

- ・日本全体の歴史の中で、山口市の歴史はどのような位置づけにあるのかという掘り下げが必要
- ・歴史を深めるとともに、どう未来を考えて、創り出していくのかということを考える。そして、そのことから何かシステムを作っていくという文化が望ましい。
- ・大内氏の時代は、文化と国際交流を大切に江戸時代になっても町民の間で文化が継承されたと考えられる。山口市が誇りだと思えるものを今後、継承していくかということが一番大切ではないか。
- ・歴史と絡むテクノロジー

部会意見

- ・大内文化のコンセプトをどう体験させるか。
- ・大内氏がサビエルを呼んでいるので、重要な場所であったことは間違いない。
- ・雪舟が一番有名ならば、雪舟、サビエル、大内文化をセットにして、分かりやすく説明する。大内文化をいきなり言われても何か分からない。
- ・大内文化や雪舟など、外の目から見たらどう評価されているのかを考えていくべきでないか？内側ばかりでやるのではなく、外からの視点で考えてほしい
- ・サビエルと雪舟、文化人と宗教を受け入れたのは大内氏だった。つまりそれが大内文化で、そういう土壌の中で、今も文化が高い。

うみだす3：「文学者の研究と本市の個性の創造」

中原中也をはじめとする本市出身の文学者を顕彰・研究し、多くの方にその文学と文学者の魅力を伝えることで、本市の個性を創造し、発信していきます。

- ・地域の文学者・文化人の顕彰と研究、資料のデータ化
- ・中原中也賞の実施、「中也と中也の詩の世界」の研究と創造
- ・中原中也記念館や帰郷庵、小郡文化資料館の運営、企画展等の開催



▲中原中也

部会意見

- ・山口だけが持っている価値をどうやって創っていくかということが重要
- ・YCAMに来られる方と大内文化特定地域に来られる方では目的が違うという視点で考えると、両方を楽しんでもらえるプロジェクトがあると良い。中也もまた違うものを持っている

うみだす4：「山口県央連携都市圏域による取り組みの推進」

山口県央連携都市圏域内の市町が、それぞれの地域が有する豊かな自然や歴史・伝統・文化、産業、人材などの個性を十分に発揮し、相互に連携や補完を図り、圏域全体としての更なる活力につなげていく取り組みを行います。

- ・山口ゆめ回廊博覧会に向けた文化プログラムやまち歩きなど体験メニューの開発
- ・山口県央連携都市圏が連携した文化イベント情報の発信

部会意見

- ・「地域通訳士」という、山口市を中心に、近隣の萩や津和野などを紹介できる人材を育成していく

うみだす5：「交流と賑わいの創造」

行政や大学、関係団体、民間事業者等と連携し、歴史や音楽、アート、国際文化等を活用した交流と賑わいの創出にかかる事業を展開・促進します。

- ・「山口ゆめ回廊博覧会」や日本博をはじめとした取り組みの推進
- ・観光産業や関係団体、民間事業者等と連携した音楽やアートイベントの開催促進
- ・自治体サミットを活用した交流創造の取り組み
- ・国際文化交流の促進
- ・訪日外国人を意識した情報発信

部会意見

- ・文化の経済的価値とは、1つは観光でインバウンドがある。

うみだす6：「創造活動や暮らしやすさの情報発信の強化」

本市の文化的な環境や取り組みをウェブサイト等を通じた情報発信を強化し、関係機関や首都圏等に在住する本市出身者と連携して、発信するとともに、国内外の企業や大学等との交流事業を通じて、移住・定住人口の増加や創造性のある人の起業や企業の誘致に向け興味・関心を高めていきます。

- ・ウェブサイトや冊子等を活用したプロモーション活動
- ・定住・移住セミナーや首都圏在住者に向けての文化情報の発信
- ・大学や研究機関、企業等との積極的な連携や交流による創造的人材の関係人口増加に向けた取り組み
- ・創造的人材が山口で起業しやすい仕組みづくりの検討
- ・創造的な企業やこれまで連携した企業に向けての連携強化

部会意見

- ・文化の経済的価値の長期的なものとしては、人口移動、移住。もう1つの大きな規模は、産業誘致、産業創出。文化度が高いからそういうことが起こっている。そのベースにあるのは教育、人材育成。
- ・移住セミナーでは、YCAMのような教育施設があると食い付きが良い。住みやすいまちとして映るのかもしれない。
- ・創造性のある産業の誘致を

部会意見

- ・YCAMの技術を使って企業の課題解決につなげることはできないか。
- ・新しい仕事や働き方とは何かをYCAMから提案することはできる。
- ・アクティブに動機的に学ぶことが楽しみにつながり、ここに暮らしたいという動機につながる。
- ・「ウェルネス」、より良く生きるにはどうしたらいいか
- ・心の豊かさはアートの目的の一つ
- ・幸せって何だ？健康、豊かさとは何だ？と考えやすい。そのようなブランディングが良いのではないか。エイジングとかやっていると思うが、高齢者の方の移住先としても山口は人気があるため来られるし、文化と相性が良いと思うので、そこを推していくことも良い。YCAM が言っている心の豊かさとは何かはそういうことを言っている。そういう1つの理念を都市として打ち出すことは文化にとって重要。

写真提供：山口情報芸術センター

